

iTesting による 新しい保健所・性感染症検査の 【愛知県での実施事例】



独立行政法人 国立病院機構

名古屋医療センター

1

新型コロナウイルス
(SARS-CoV-2)
感染症対策により、
多くの保健所において
HIV検査を停止している
自治体が増加

2

感染症対策として、
できるだけ感染リスクを
抑えた検査の方法を実施
×
保健所以外の場所でも
施行を可能に

3

アウトソーシングによる
感染リスクの最小化と
保健所業務の効率化
↓ ↓ ↓
性感染症の早期発見・
早期治療に繋がる

【従来】の保健所での性感染症検査（簡略図）



【iTesting】での性感染症検査（簡略図）

※検査は保健所以外の場所でも施行可能

【検査日】

- ウェブから予約してIDを取得
- 検査会場受付でIDを提示



（POINT）

いつでもどこからでも
予約ができる

【検査日】

- 検査の説明および同意は、
タブレットを使って行う



（POINT）

新型コロナウイルス
（SARS-CoV-2）
感染症対策を徹底した
アウトソーシングによる
感染リスクの最小化と
保健所業務の効率化
※保健所以外の場所でも
検査の施行が可能

【検査日】

- 郵送検査キットの使用
- ランセット針で自己採血
- 検査会場内投函箱へ提出



まとめて検査会社へ郵送
→検査会社で血液検査



【結果日】※3営業日以降

- 予約IDパスワードを入力して
ウェブで検査結果を確認



（POINT）

ウェブ確認で、
誰にも知られることがない

【結果日】※3営業日以降

- メール・チャット・電話で
検査会社や支援団体と相談も可能



（POINT）

自分にあった
相談方法の選択が可能

【HIV 陽性反応の場合】

- 確認検査施行後、紹介状（PDF）の発行



●HIVスクリーニング陽性
→名古屋医療センターまたは、
各保健所へ確認検査の受検案内

●梅毒・HBV・HCV陽性
→名古屋医療センターまたは、
適切な医療機関への紹介状を発行

iTestingによるメリット

1

飛沫・接触感染リスクを低減した検査方法の確立

予約システムの導入、タブレット端末などを利用した検査オリエンテーション、郵送検査キットの利用により、受検者と検査従事者の接触機会は著減する。

2

少ないマンパワーによる効率的な保健所検査方法の確立

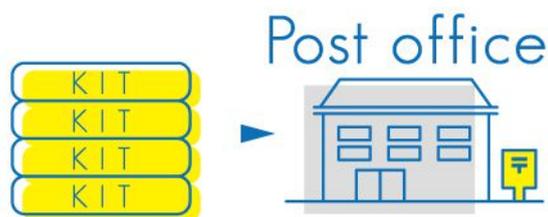
保健師、看護師、医師などの多くのマンパワーが必要であったが、最小で見守り職員1~2名で実施可能である。

(例：受検者4人に対し【受付+見守り=合計2名】で検査施行)

3

施設や設備に制限なく実施可能なHIV検査機会提供

例えば郵送検査キットの使用により採血等行為が認められた施設において、検体処理と検査の設備がなくても実施可能で、検査場所の設定の自由度が高まる。



郵送検査キット活用のメリット

- プライバシー配慮下のHIV検査機会提供が可能
- HIV検査提供の機会を拡大
- 生涯受検率向上の可能性

※郵送検査キット利用時の今後の課題

個人の健康情報の確実な保護／検査会社と医療機関・保健所との連携／
受検者に対する相談・支援体制の充実などがある。

【iTesting】での性感染症検査(検査方法1/3)

※検査は保健所以外の場所でも施行可能

【検査日・前】

- ウェブから予約してIDを取得



(POINT)

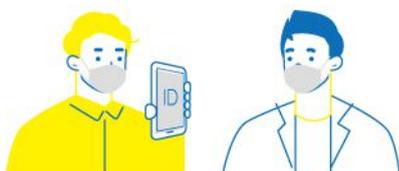
いつでもどこからでも
予約ができる

《ウェブによる事前予約》

- 受検者は専用のウェブサイトから予約を取得する。
- 予約取得者には予約ID番号が発行され、当日スマートフォンの画面に表示可能な電子予約票が発行される。

【検査日】

- 検査会場受付でIDを提示



(POINT)

当日の検査会場、
予約IDを見せるだけで
スムーズに入場

《検査当日・受付》

- 受検者は検査会場に予約時間に来所し、入口でスマートフォンの予約票を提示する。

【検査日】

- 検査の説明および同意は、
タブレットを使って行う



(POINT)

タブレット上で、
検査の説明・同意など
オリエンテーションが完結

《オリエンテーションおよび同意取得》

- タブレット端末によるオリエンテーションと研究計画の開示を行う。
- オリエンテーションの最後には検査に関する理解度を確認する。
- 職員スタッフは、オリエンテーション終了時にタブレット上で受検及び研究参加同意を確認する。

【検査日】

- 郵送検査キットの使用
- ランセット針で自己採血
- 検査会場内投函箱へ提出



(POINT)

ホルダーを指にあて、
カチッと音がするまで
押すだけ

《ろ紙血の採取実施》 ※検査キット・血液採取については別紙にて

- オリエンテーション終了後、郵送検査キットを職員スタッフより手渡す。
- 受検者は郵送検査キットを開封し、ランセットを用いて指尖より血液を漏出させ、必要量をろ紙に吸収させる。

【iTesting】での性感染症検査(検査方法2/3)

※検査は保健所以外の場所でも施行可能

【検査日】

- 郵送のための書式作成・梱包



《 郵送のための書式作成と梱包 》

- 受検者はウェブでの結果確認に用いるパスワードを任意に設定し、検査申し込み用紙に記入する。
- 検査確認時に必要な検査日・生年月日を記入する。
- 検査申し込み用紙とろ紙および感染性廃棄物をあわせて専用封筒に入れる。

【検査日】

- タブレットにて
受検者アンケートに回答



《 受検者アンケート実施 》

- 受検者は、タブレット上でアンケート調査を行う。
(年齢・性別・同居者の有無・検査歴の有無・HIV知識の確認・本検査の感想)

【検査日】

- 検査会場内投函箱へ提出



(POINT)

郵送検査キットを
その場で投函するだけ

《 検査キットの投函 》

- 受検者は検査会場内の投函箱に封筒を投函する。

職員スタッフがまとめて
郵送検査キット会社へ郵送



《 検査キットの郵送 》

- 職員スタッフがまとめて、郵送検査キット会社へ郵送する。

【iTesting】での性感染症検査(検査方法3/3)

※検査は保健所以外の場所でも施行可能

郵送検査キット会社で
血液検査



【結果日】※3営業日以降

●予約ID パスワードを入力して
ウェブで受検者が検査結果を確認



(POINT)

ウェブ確認で、
誰にも知られることがない

《検査結果・確認》

- 3営業日以降受検者は自分で結果確認サイトにアクセスして結果を確認する。
 - ①結果確認サイトへのアクセス
受検者は、QRコードから郵送検査キット会社の特設サイトの結果確認画面にアクセスする。
 - ②サイトへのログイン
受検者は、検査申し込み用紙に記載したIDとパスワードを入力して結果を確認する。

【結果日】※3営業日以降

●メール・チャット・電話で
検査会社や支援団体と相談も可能



(POINT)

自分にあった
相談方法の選択が可能

《検査・受診に関わる相談》

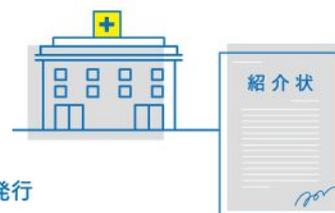
- 郵送検査キット会社の相談システム及びぶれいす東京の相談システム（電話、チャット）で対応する。
- 名古屋医療センターでも要精査・要医療受検者に対しては感染症内科で電話相談に応じる。

【HIV スクリーニング陽性】

●名古屋医療センターまたは、各保健所へ確認検査の受検案内

【梅毒・HBV・HCV 陽性】

●名古屋医療センターまたは、適切な医療機関への紹介状（PDF）を発行



《要精査・要医療受検者への対応》

- HIVについては保健所もしくは名古屋医療センターでの確認検査の受検案内を行う。
- HBV、HCV、梅毒については、名古屋医療センターもしくは適切な医療機関宛の紹介状（PDF）が結果告知画面より発行される。

【iTesting】での性感染症検査（自己検体採取法）

※郵送検査キットを活用して、HIV・HBV・HCV・梅毒同時検査の場合

1		開封したキット全体（ランセット針は4本入っています）
2		検査申込書に必要事項を記入します。 ここで申込ID(8ケタの予約番号)やパスワード(ご自身で決めて頂きます)を記入します。 採血用ろ紙のオモテ面にもID(上記予約番号)を記入します。
3		針を刺す部分を同封されているアルコール綿で消毒します。
4		ランセット針の保護キャップをねじって引っ張り、ホルダーから取り外します。
5		ホルダーを指で保持し、刺す場所を選び、 皮膚を張らせた状態でホルダーの先端部分を刺す場所に押し当てます。
6		「カチッ」と音がするまでさらに押し付けます。
7		指先に血をためます。血玉になるまでできるだけ多くの量をためてください。 血が止まりそうな場合、指先に向けて押し出すようにマッサージすると効果的です。
8		出てきた血液はろ紙に染みこませます。 どんどん指の腹を押して血液を出してはくり返し染みこませます。
9		規定の線までろ紙に血液が染みこんだら検査完了です。 (1項目につきろ紙1本使用)
10		同封されている絆創膏を貼ります。
11		ろ紙は採血セットが入っていた袋(透明な袋)に入れます。
12		ごみは全て黄色い袋に入れます。 (検査会社にて医療廃棄物を処理してもらうため)
13		ろ紙と検査申込書の1枚目、ごみの入った黄色い袋をすべて封入して完了です。

【iTesting】での性感染症検査（自己検体採取法）

※郵送検査キットを活用して、HIV・HBV・HCV・梅毒同時検査の場合

【拡大版1/2】

1		<p>開封したキット全体 (ランセット針は4本入っています)</p>
2		<p>検査申込書に必要事項を記入します。 ここで申込ID(8ケタの予約番号)やパスワード(ご自身で決めて頂きます)を記入します。 採血用紙のオモテ面にもID(上記予約番号)を記入します。</p>
3		<p>針を刺す部分を同封されている アルコール綿で消毒します。</p>
4		<p>ランセット針の保護キャップをねじって引っ張り、 ホルダーから取り外します。</p>
5		<p>ホルダーを指で保持し、刺す場所を選び、 皮膚を張らせた状態でホルダーの先端部分を 刺す場所に押し当てます。</p>
6		<p>「カチッ」と音がするまでさらに押し付けます。</p>
7	 <p>血玉になるまで ためる</p>	<p>指先に血をためます。 血玉になるまでできるだけ多くの量をためてください。 血が止まりそうな場合、指先に向けて押し出すように マッサージすると効果的です。</p>

【iTesting】での性感染症検査（自己検体採取法）

※郵送検査キットを活用して、HIV・HBV・HCV・梅毒同時検査の場合

【拡大版2/2】

8		<p>出てきた血液はろ紙に染みこませます。 どんどん指の腹を押して、 血液を出してはくり返し染みこませます。</p>
9		<p>規定の線までろ紙に血液が染みこんだら 検査完了です。 （1項目につきろ紙1本使用）</p>
10		<p>同封されている絆創膏を貼ります。</p>
11		<p>ろ紙は 採血セットが入っていた袋(透明な袋)に入れます。</p>
12		<p>ごみは全て黄色い袋に入れます。 (検査会社にて医療廃棄物を処理してもらうため)</p>
13		<p>ろ紙と検査申込書の1枚目、 ごみの入った黄色い袋をすべて封入して完了です。</p>

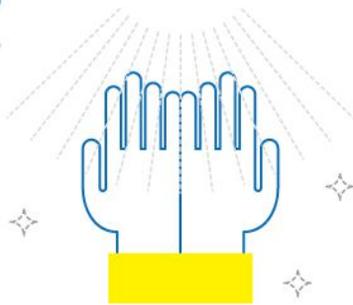
iTesting会場での感染症対策 (ポイント1/2)



① マスクの着用 (サージカルマスク・布マスクなど)

安全確保のため、健診の遂行上、特に必要のある場合を除き、健診会場ではマスクの着用を原則。マスク不足が深刻な折、受検者のマスクは原則として受検者が用意。マスク着用がない場合は健診受検不可。

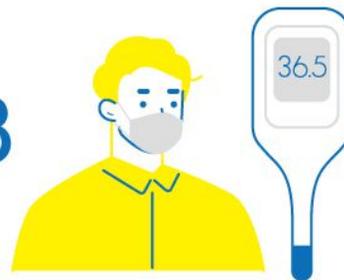
2



② アルコール消毒・清拭の徹底

会場入り口だけでなく、受検者が座るテーブルにも一つずつ消毒液を設置。また受検者が触れる箇所を定期的に消毒、各受検者が検査終了するたびに、机、タブレット全て清拭。

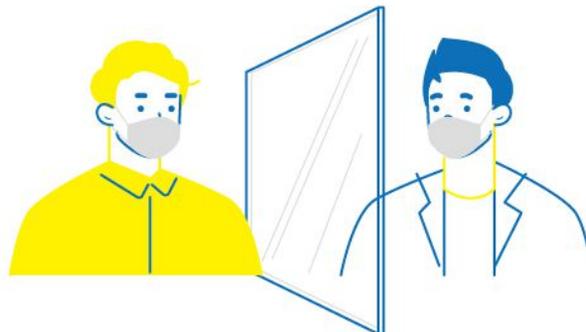
3



③ 会場入り口での体温測定

会場入り口での健診受付後、速やかに問診・体温測定を行い健康状態を確認。37.5度以上の発熱があるなど不適當と判断した場合は、説明した上で、後日、体調が回復してからの受診を促す。

4



④ アクリルパネルの設置

受診者とスタッフの間には各テーブルにアクリルパネルを設置し、対面で話す際は、適切な距離を確保するよう配慮。会場入り口にも設置。

iTesting会場での感染症対策 (ポイント2/2)



⑤「密集・密接」の回避

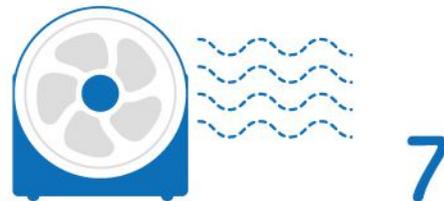
受検者間の距離を確保するとともに、健診に要する時間を可能な限り短縮。

- 密集・密接を避けるため、インターネット予約システムによる完全予約制。
- 各受検者の距離は2m以上あける。
- 受検者の一日の予約者数、予約時間などを調整。



⑥ 接触著減による自己完結型の検査

- 郵送検査キットを使用した自己採血。終了後、投函箱へ提出。
- アルコール消毒可能な端末（タブレット）の使用。一人当たりの検査開始から終了までの時間の中央値は22分。30分あたりタブレットの台数分、予約枠を確保。

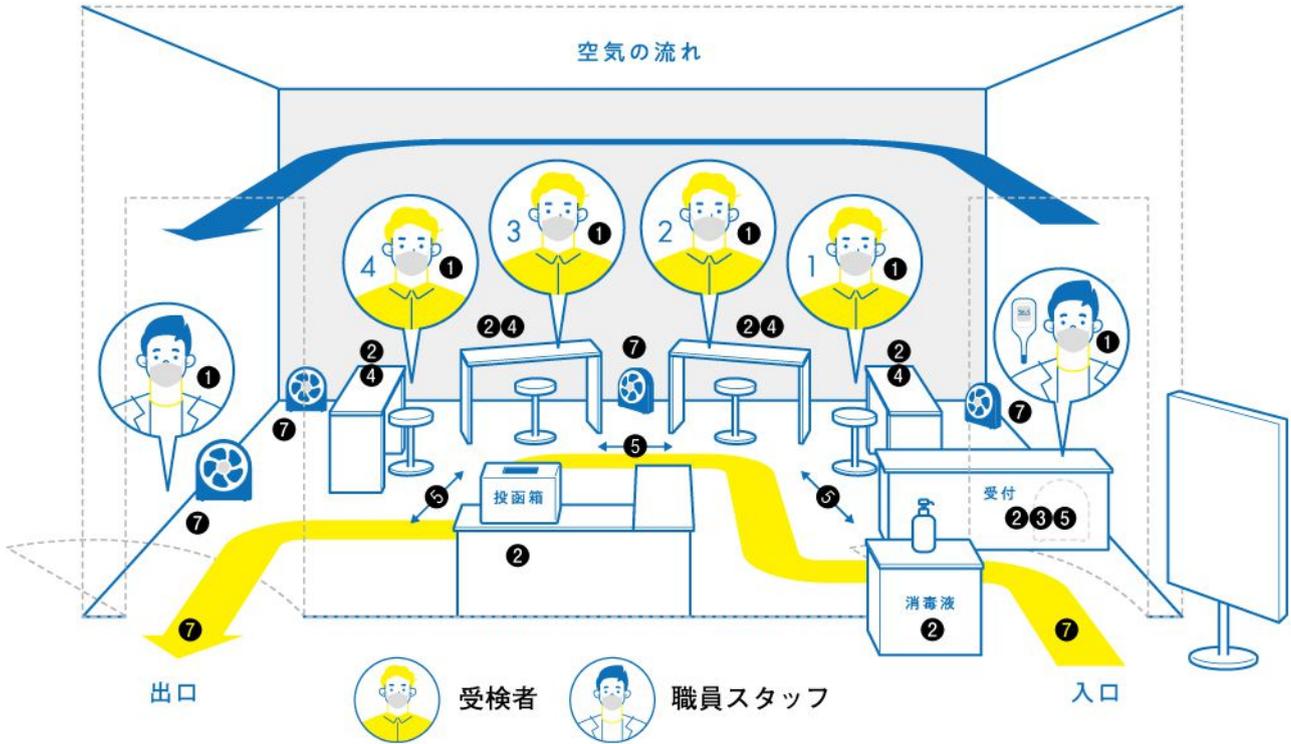


⑦ 室内換気・空気の循環

室内の換気は一時間に2回以上定期的に窓やドアを開けるなど行う（ただし、機械式換気装置が稼働し、十分な換気量が確保されている場合を除く）。また部屋のドアは常時開放し、室内にサーキュレーターを設置するなど空気の循環を促す。

iTesting会場での感染症対策 (会場配置図イメージと動線)

【立体図】



【平面図】



● 空気の流れ

● 受検者の動線

- ① マスクの着用
- ② アルコール消毒・清拭
- ③ 体温測定
- ④ アクリルパネルの設置
- ⑤ 密集・密接の回避
- ⑥ 接触著減による検査
- ⑦ 室内換気・空気の循環

● 受検者 ● 職員スタッフ

iTesting に期待できる効果

1

外的要因の影響の最小化による保健所検査体制の維持
特別な施設・設備を要せず、外部委託によるコスト抑制も可能であることから、今般のような状況下でも保健所検査の休止期間の最小化と検査体制再構築を可能にする。

2

業務の効率化と質の向上による保健所検査の受検者増加
確認検査を要する受検者対応への人的資源の集中により確実な医療機関への橋渡しが可能になる。またより安全安心な検査体制を確立することができ、受検者数も増加も期待される。

3

HIV検査等の提供機会の増加による新規発生届出の減少

HIV status の確認機会の増加による早期発見・早期治療が可能となり、新規発生届出数の減少とエイズ発症阻止につながると見込まれる。

iTestingによる 新しい保健所・性感染症検査の愛知県での実施事例

令和2年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
「新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究」班

発行日 2021年3月 第1版
発行者 研究代表者 横幕能行
発行所 研究班事務局



独立行政法人 国立病院機構
名古屋医療センター

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1